

ANNUAL REPORT 2023

**FRESH ON !DEAS
W!LD ON KNOWLEDGE**

01-04: Conferences
05: Sustainability
06-07: Incentives
08: Partners
09: Other

**SAPPORO
CONVENT!ON
BUREAU**

MN Bldg.3F,
Kita 1 Nishi 3, Chuo-ku,
Sapporo,

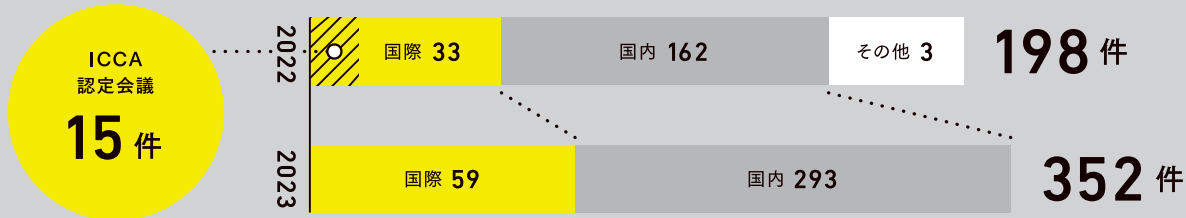
Hokkaido
060-0001
Japan

[www.
conventionsapporo.
jp](http://www.conventionsapporo.jp)

対象期間：1月～12月

コンベンション統計

国際・国内会議の開催件数



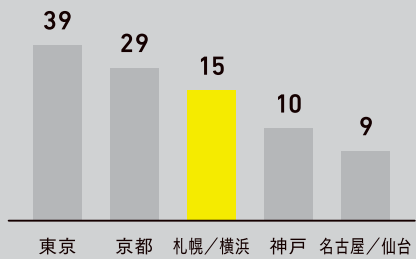
ICCA
認定会議
15件

ICCA*(国際会議協会)
会議件数／都市ランキング2022

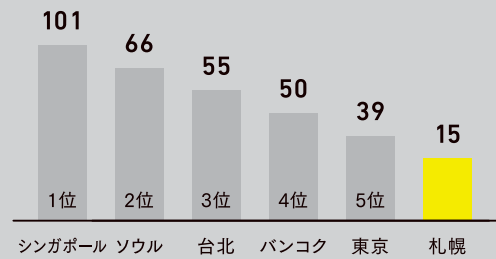
アムステルダムに本部を置くICCAは、国際会議の開催状況を収集・発信している国際機関。世界91ヶ国、約1,000団体・事業者が所属しています。

札幌と同じ件数／ランキングの都市：
ブリスベン／香港／オースティン
ドレスデン／ケベックシティーなど

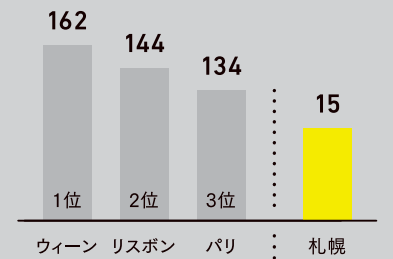
国内 3位



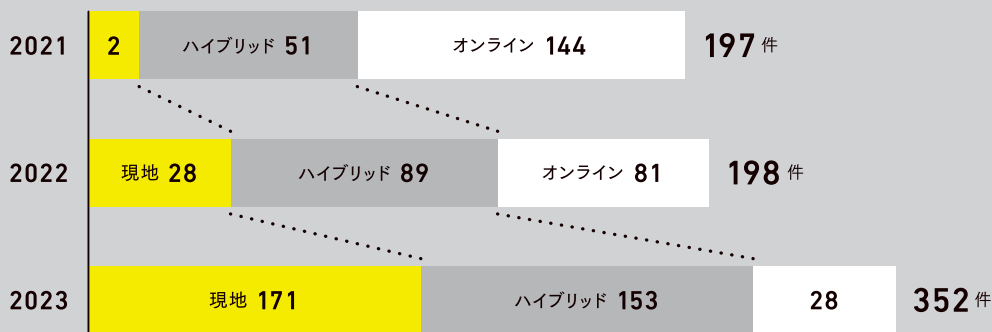
アジア太平洋地域 16位



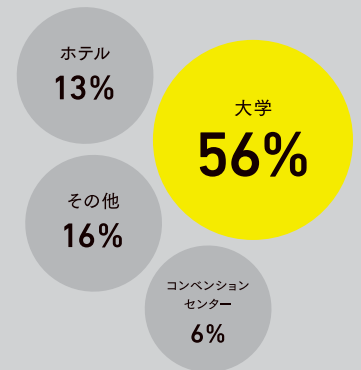
世界 138位



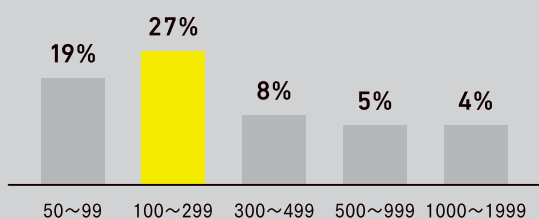
現地／ハイブリッド／オンライン



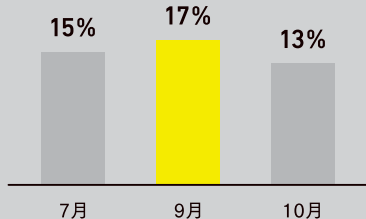
会場別(2023年)



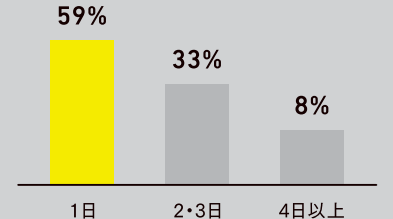
規模別(2023年)



開催月別(2023年)



開催日数別(2023年)



開催された国際会議

www.ursi.org/homepage.php

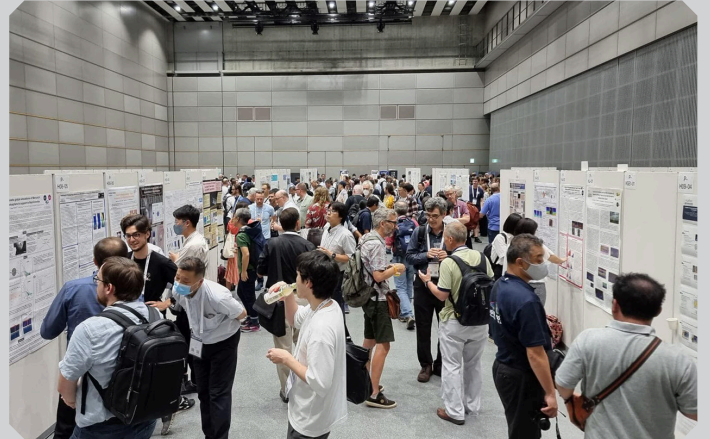
2023.08.19 - 08.26

URSI GASS 2023

第35回国際電波科学連合総会

@札幌コンベンションセンター / 参加者数: 1,434名、49カ国・地域

URSI総会は、国際電波科学連合 (International Union of Radio Science: URSI) が主催し、1919年以来、3年ごとに開かれている国際会議。今日のスマートICT社会を支える高度な無線通信技術で注目される電波科学は、地球環境のモニタリングや災害リスク管理を進めるうえでも、極めて重要な研究分野です。30年ぶり3回目となった日本での総会では「持続可能な電波科学が拓く未来」をテーマに、世界各国の研究者や技術者、学生が最先端の研究成果を持ち寄り、活発な議論と情報交換が行われました。日本での開催によって、これからの電波科学研究を担う日本の研究者の育成やアジア地域の研究発展、活動の活性化と継続につながる事が期待されています。



©URSI

テクニカルツアー



国際共同プロジェクトSuperDARNでは、北半球・南半球併せて35基を超えるレーダーを地球の高・中緯度に設置しています。その1基が設置されている陸別町をURSI総会参加者が訪ねるツアーの企画を当ビューローがサポートしました。12カ国32名がりくべつ宇宙地球科学館 (銀河の森天文台) とSuperDARN北海道-陸別HFレーダーを訪問。SuperDARNプロジェクトを率いる名古屋大学宇宙地球環境研究所の西谷望准教授から説明を受けながら、レーダー装置やアンテナを見学。北海道だからこそ実現できた2泊3日のツアーは、世界の電波科学のトップ研究者と次世代の研究者が交流する貴重な機会にもなりました。

参考

カーボンオフセットプログラムにご協力

参加者の移動・宿泊・食事分のCO2を、オフセット。寄付額12,000円

市民向け体験型イベント



「科学教室 - 見えないでんぱを感じてみよう -」

対象: 小学3年生～小学6年生 ※保護者同伴

参加者数: 札幌94名 / 陸別15名

電波科学関連技術が毎日の暮らしの中でどのように活かされているかを、親子で楽しく学んでもらう科学教室が会議最終日に開催されました。子どもたちはサポート役の大学生と一緒に電池を使用しない「ゲルマニウムラジオ」を、保護者が受信用の大型アンテナをそれぞれ製作し、電波の不思議さや面白さを体感。停電や通信が途絶えた災害時のラジオの活用について考えるきっかけにもなりました。また、参加した札幌と陸別の小学生がオンラインで交流する企画や、札幌市青少年科学館の協力によるサイエンスショーも実施。目には見えない電波科学の世界を、子どもたちが身近に体験できた1日となりました。

関係者コメント

小林 一哉 氏

URSI GASS 2023大会委員長

URSI副会長、URSI副事務局長 (AP-RASC担当)

中央大学 理工学部 電気電子情報通信工学科 教授

第35回札幌総会を振り返って、まさにポストコロナにふさわしい成果が得られたと感じています。1,400人が現地に参加し、そのうち3分の2は海外からの参加者であり、大変国際色豊かな会議となりました。このような成果は現地が一体となった協力が無ければなしえなかった結果です。北海道、札幌市、札幌コンベンションビューロー、並びに北海道の大学 (北海道大学、北見工業大学、室蘭工業大学) 等の多くの関係者より絶大なるご尽力をいただきました。もちろん、国内外からURSI総会の札幌開催を楽しみにして参加してくれた人達にも大感謝です。

石坂 圭吾 氏

URSI GASS 2023実行委員会

富山県立大学 工学部 電気電子工学科 教授

小学生に電波科学の面白さ、重要性に触れてもらうために、ループアンテナを使ったゲルマニウムラジオの製作を通して、電波が伝わってくる方向などを体験してもらいました。子どもたちがラジオの間こえる場所を探し、アンテナの向きなどを考えて製作した受信機と保護者が製作したアンテナを組み合わせることでラジオを聴くという体験は、なかなかないことだと思います。電池がなくても情報を得られることや、電波が伝わる方向があることが分かったという感想が子どもたちや保護者から寄せられ、電波の不思議さ・面白さを実際に体験してもらえたことが、とても嬉しいです。

開催された国際会議

2023.09.11-09.14

ATWS 2023

アドベンチャートラベル・ワールドサミット

@札幌コンベンションセンター／参加者数：773名、64カ国・地域

アジア太平洋地域で初めての総会となったアドベンチャートラベル・ワールドサミット。総会前に実施されるPre-Summit Adventure (PSA) が、北海道を含む全7地域において22コースが行われました。大会1日目には道内日帰りツアーのDay of Adventure (DOA) も31コースで実施。アウトドアアクティビティやアイヌ文化をはじめとした地域の歴史・文化プログラムなどを通じて、参加者は北海道のアドベンチャートラベルの現状やサステナブル・ツーリズムの取り組みを確認していました。アドベンチャートラベル(AT)はアクティビティ、自然、文化体験のうち、2つ以上の要素を含む旅行をいいます。北海道はATを構成する3要素を観光資源として多くを有していることが、国内他地域にはない強みになっています。サミット期間中、日本政府観光局(JNTO)が実施したアンケート調査では、関心が高い日本のATコンテンツとして、アクティビティ、自然体験に加え、地域住民との交流、食、伝統文化体験が挙げられました。その一方で、「ガイドの英語レベルが低い」や「情報が不足している」などの課題も浮上。今後のAT推進においては、ガイドの確保及び育成がキーとなっていくことを改めて実感しました。



©ATTA

イベント詳細

www.adventuretravel.biz/

ATWS2023／ハイライト動画

www.youtube.com/watch?v=nLwbQxmE50w&t=2s

©ATTA

関係者コメント

ハンナ・ピアソン氏

アドベンチャートラベル・トレード・アソシエーション(ATTA)
アジア太平洋地域・ディレクター

アジア太平洋地域初のアドベンチャートラベル・ワールドサミットが北海道で開催されたことは、同地域におけるアドベンチャーツーリズムの捉え方に大きなインパクトを与えたと感じています。参加者は、北海道がこれまでのATWS開催地と異なるとかを感じ、北海道や日本が持つ豊かな自然や文化を楽しんでいました。APAC地域において、オーバーツーリズムの対策として、アドベンチャー分野への関心が高まっていることを実感しています。北海道がATWSの開催地となった経緯にも強い関心を寄せています。北海道にとってATWSはこれまでの活動の終着点ではなく、今後、アドベンチャートラベルのハブとして、世界的に認知されるきっかけになったことを確信しています。

水口 猛氏

国土交通省 北海道運輸局 観光部長

アドベンチャートラベル・ワールドサミットでは、Pre-Summit Adventure(5日間177名参加)、Day of Adventure(日帰り550名参加)と呼ばれる公式エクスカージョンを設定。参加者が北海道の自然・文化を実体験してから会議に臨んだことが、大きな特徴となりました。ウェブ上には膨大な北海道の情報が発信され、有望なデスティネーションとしての認識を高めました。64カ国からの参加者は、国籍や業種、立場を超えたパートナーという意識で参加しており、北海道はこのコミュニティの一員として地位を固めることができました。今後はこのネットワークが大きな力となり、自然・文化・地域を大切に多くの旅行者が北海道を選んでくださることを期待しています。

宗岡 真音氏

札幌市 経済観光局 観光・MICE推進部
観光・MICE推進課 誘致担当係長

札幌市はATWSの誘致から開催まで深く関わってきました。その成功を目指すのは当然ながら、今回の参加者は訪日が初めてという方が多く、日本の魅力や快適さを滞在先の札幌で感じていただくことも重要でした。今回の高評価には「札幌での滞在」という要素も少なからず含まれていると考えます。今回のATWSでは「文化」への関心が高くなり、「札幌が持っている文化や個性」をATの要素として楽しんでいただくことへの可能性も感じました。札幌市は、昨年11月に英国で行われた商談会(WTM)に参加しました。順番待ちができるほどのリクエストがあり、札幌を認知してもらうことすら大変だった欧米圏で、北海道・札幌というデスティネーションが注目を高めていることを実感しました。

開催が決まった国際会議

2023年4月に札幌で開催されたG7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合、
2024年にも環境分野のコンベンションが続く

2024.07.08 – 07.12

GEWEX-OSC 2024

第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議

@京王プラザホテル札幌 / 参加者数700名、40カ国・地域

GEWEX-OSCは、地球規模の気候変動が水やエネルギーの循環に及ぼす影響について研究する国際会議です。1994年に第1回会議がイギリスで開催され、日本では2024年が初開催となります。国際的に活躍する関係者が集結する本会議では、地球規模、および地域スケールのエネルギーと水の循環に関する最新の研究成果や取り組みを共有。雲・降水・河川・雪氷等を含む地球上の水循環プロセスや、集中豪雨・熱波等の極端気象につながる自然プロセスと、農業や地下水利用等の人間活動を含めた統合的な水循環についての議論が行われます。また、気候変動に対して強靱な社会づくりや防災、水循環・水環境、途上国支援等、社会実装側へ橋渡しする特別セッションも企画。課題解決に向けた議論を深めていく予定です。日本が世界に先駆けて進めてきた最新の研究と社会での応用事例を北海道・札幌から世界に向けて発信するとともに、市民の気候変動や防災への意識を育てていくことも大きな目的としています。開催に向けて、気候変動に関する市民向け公開講座も計画中です。

イベント詳細

sites.google.com/eis.hokudai.ac.jp/gewex-osc2024/

想定される経済波及効果

5億円

※観光庁MICE簡易測定モデル



2024.09.03 – 09.04

Global Offshore Wind Summit
- Japan 2024

@札幌コンベンションセンター / 参加者数:1,000名、30カ国・地域

2024年9月に洋上風力発電の国際会議「Global Offshore Wind Summit - Japan 2024」の開催が決定しました。主催団体である一般社団法人日本風力発電協会と共同で本イベントを主催するGWEC(Global Wind Energy Council)は、80カ国以上、1,500を超える風力エネルギー部門の企業、組織、機関で構成。風力発電産業のイベントを世界各国で開催し、国連気候変動枠組条約(UNFCCC)など、さまざまな国際機関とも連携しています。イギリスやドイツでは風力発電が再生可能エネルギーの20%以上を占めているのに対し、日本では0.9%に留まっているのが現状です。今後、洋上風力発電などを積極的に活用し、この割合を2030年には5%まで伸ばすことが目標とされています。

イベント詳細

www.gows-j.com/

想定される経済波及効果

5億5,000万円

※観光庁MICE簡易測定モデル



大型会議の決定も

2025.10.23 – 10.26

OSEAL Forum 2025

第62回東洋・東南アジアライオンズ・フォーラム

@札幌コンベンションセンター / 札幌ドーム / 京王プラザホテル札幌

参加者数:12,000名

関係者コメント

鶴嶋 浩二 氏

第62回OSEAL Forum Sapporo 組織準備委員会委員長
ライオンズクラブ国際協会 2022-2024年度国際理事

東洋・東南アジア地域のライオンズクラブメンバーが集まり開催されている、東洋・東南アジアライオンズ(オセアル)フォーラムは、他の地域や国のメンバーとの良い学びと交流の場になっています。2025年の開催日まで「WISH~LAT.43°N~共生と循環 未来の子どものために」というフォーラムテーマのもと、多彩な取り組みを行う予定です。それらの活動を通じて、ライオンズクラブが地域社会の課題に取り組んでいることを広く知っていただく機会になり、地域へのインパクトも期待できると考えています。

イベント詳細

2025oseal.com/ja

想定される経済波及効果

31億円

※観光庁MICE簡易測定モデル



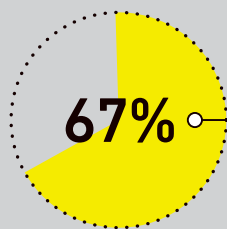
サステナビリティ

Global Destination Sustainability Index (GDS-Index)

札幌コンベンションビューローでは、ビジネスイベント開催地として、都市のインフラ・環境面での取り組みやコンベンションビューローの受入サポート等の評価・改善指導を行う環境指標プログラム「Global Destination Sustainability Index」に参加し、持続可能な都市の実現を目指しています。



2023年 GDS-Indexスコア

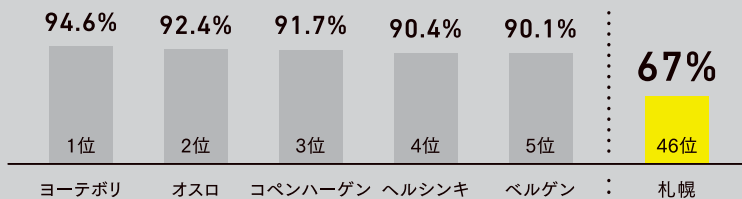


昨年から
8%アップ

参考

www.gds.earth/destination/Sapporo/2023/

2023年 都市ランキング



札幌とスコアに近い都市:

ミラノ72% フランダース71%
マルセイユ70% アムステルダム68%など

参考

www.gds.earth/top-40-2023/

関係者コメント

生物多様性に関する取り組み

札幌市環境局 環境都市推進部 環境共生担当課より

札幌市域は多様で変化に富んだ地形や地質であり、地理的にも北方系と南方系の生物分布の接点にあたるため、約8,000種もの生物が生息しています。この豊かな生物多様性を守るため、2013年「生物多様性さっぽろビジョン」を策定し、市民への普及啓発などを進めてきました。しかし近年、生物多様性の損失は気候危機と並ぶ世界的な課題となり、更なる取り組みが「今」求められています。そこで本市では「ネイチャーポジティブ」という新たな視点を踏まえ、2024年3月に同ビジョンの改定を行い、生物多様性の保全活動の強化をはじめとし、更なる取り組みを推進することとしています。

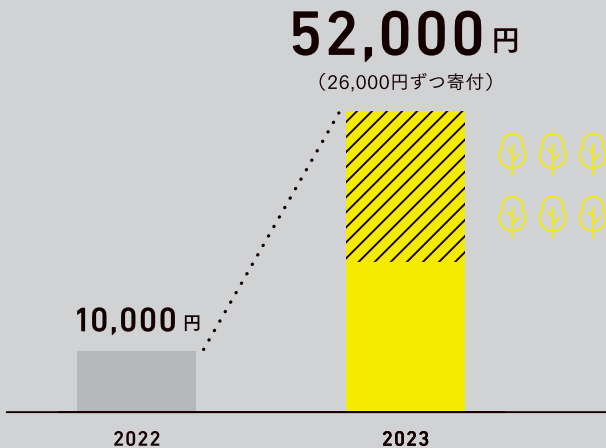
参考

www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/vision2024.html


カーボンオフセットプログラム

札幌コンベンションビューローでは、道内企業・団体と連携し、札幌で開催される会議やインセンティブツアーから排出されるCO2量の算定・オフセットを推進しています。植林等の森林管理と北海道の野生生物保護活動への寄付を通して、ビジネスイベントによる環境負荷・CO2排出量の削減に取り組んでいます。

寄付額



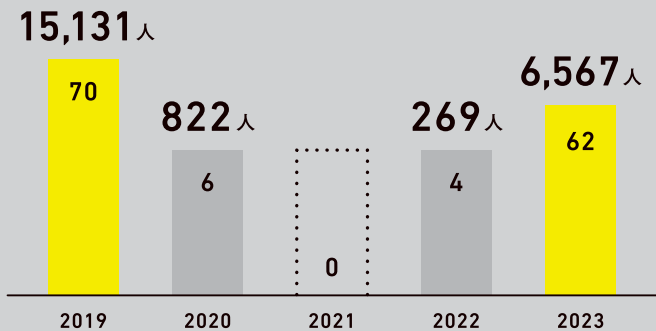
PDFダウンロード

www.conventionsapporo.jp/jj/conferences/pdf/carbon_offset_jp.pdf


対象期間：1月～12月

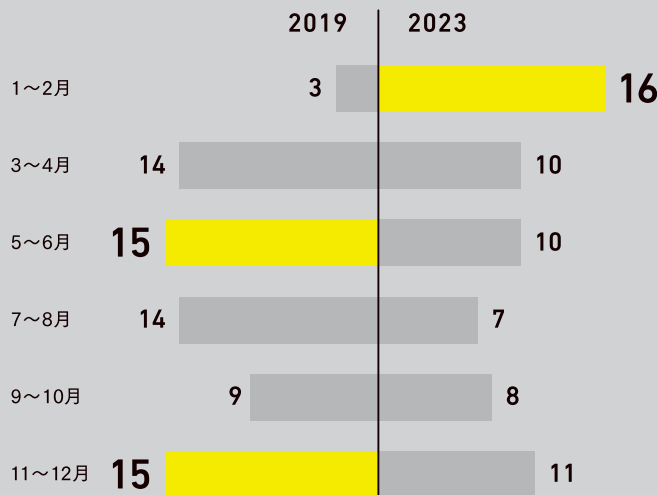
インセンティブ(報奨・研修旅行)統計

コンベンションビューローにて
支援を行った海外インセンティブ

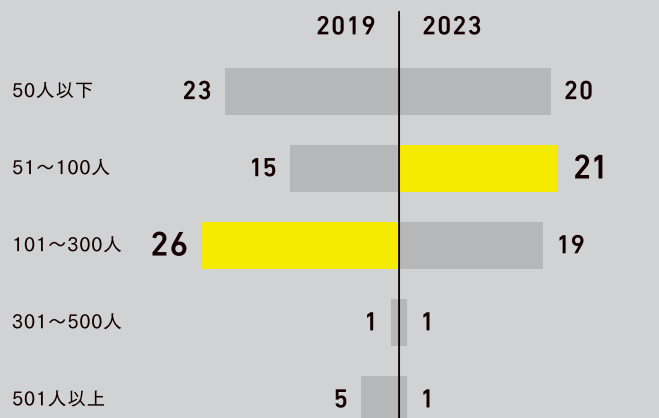


2020年3月～2022年10月の期間、
COVID-19の水際対策・観光目的の入国制限により、受入・支援無し

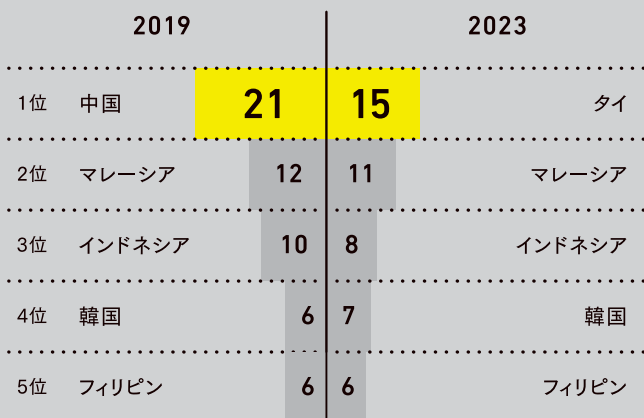
開催月別



規模別



国別



インセンティブサポートの実施例



マレーシア・自動車部品メーカー

大倉山ジャンプ競技場で、スキージャンプの選手たちによるデモンストラクションとして、実施しました。

大型案件も!

東南アジア・パシフィック

化粧品メーカー 開催期間：2024年1月～3月

札幌の冬の魅力を体験できるユニークメニュー、アクティビティを提案。会場には会社のロゴ入り氷像を設置しました。

参加人数
1480名



想定される消費額

5億 1,200万円

一人あたり消費額 報奨・研修旅行：約32万円(2018年観光庁)



FAMトリップの受入

ASEAN旅行業界に向けて
グリーンシーズンの魅力を発信

ASEAN(東南アジア諸国連合)地域に、観光・MICE業界へ強い影響力を持つASEANTA(東南アジア諸国連合観光連盟)幹部及びASEAN主要旅行社20社を対象にしたファミトリップを実施しました。ASEAN地域は、今後札幌へのさらなるインセンティブツアー招致が期待される重要なマーケットです。そこで今回は、既に一定の認知度がある冬期ではなく、グリーンシーズンの魅力を体感していただきました。北海道の豊かな食は、ベジタリアンなどにも味わう楽しみを損なうことなく対応し、爽やかな気候のもとの豊富なアウトドアアクティビティは、ASEAN地域のお客さまの多様な要望にも応え、高い評価を受けました。視察に加えて、旅行会社によるBtoB商談会も実施しました。札幌のMICE・観光事業者33社が参加。コロナ後の最新の施設・コンテンツ情報の提供を通じて、ASEAN地域からは札幌・北海道への送客についての今後の提案に役立つ具体的なニーズを知ることができました。

今回のファミトリップにあわせて、エディ・クリスメイディ・ソマウイラガ会長をはじめとするASEANTA役員が札幌市長を訪問。トップレベルのネットワークを構築し、今後の札幌とASEAN両地域間のMICE・観光分野での連携の重要性を確認しました。その後、9月には札幌市長がマレーシアで開催されたMATTA FAIRに参加し、ASEANTA会長との面談において、2024年のASEANTA年次総会の受け入れ意思を表明。ASEAN地域外で初めてのASEANTA年次総会の札幌開催が決定しました。

ASEANTA年次総会

ASEANTA Annual General Meeting
2024.05.09 @札幌パークホテル

企業ミーティングの支援も

2023.09.05 - 09.07

Asia Peering Forum 2023

@ホテルモントレエーデルホフ札幌 / 参加者数: 166名、16カ国・地域

企業ネットワークとクラウドコンピューティングのための世界最大のデータセンターおよびコロケーションプロバイダーであるエクイニクス社。同社が主催するAsia Peering Forumは、インターネットサービスプロバイダー(ISP)が新たなパートナー探しやディスカッションを行うため、世界各地で実施されています。札幌では、アジア太平洋地域を中心に約170名の企業関係者が集まり、地元からは北海道総合通信網株式会社などがスピーカーとして参加。北海道のインターネット環境について語り、量子コンピューター、海底ケーブルの北海道への敷設、それによるトラフィックの増加等について議論されました。コンベンションビューローでは会議・商談会、ソーシャルイベント用の会場選定、チームビルディング等の提案・企画をサポートしました。



関係者コメント

ASEANTA会長
エディ・クリスメイディ・ソマウイラガ氏

札幌は多くの魅力があり、1年通して訪れたいと思える場所です。ASEANTAとしても札幌の観光プロモーションを支援したいと考えており、観光業界にとってプラスとなることを期待しています。



関係者コメント

株式会社イーサイド イベント事業部長
スコット・マクドナルド氏

札幌はビジネスイベントの開催地として知名度が高く、確立されたブランドを持っているため、候補地として非常に提案しやすい都市です。会場設備、宿泊施設、アクセスの良さ、そして札幌とその周辺に広がる北海道の自然環境を組み合わせることで、PCOとして、参加者のビジネスとネットワーキングの両方でユニークな環境を作り出すことが可能です。首都圏では再現できない環境です。札幌コンベンションビューローは、これら強みを生かし、アジアピアリングフォーラム2023の成功に大きな役割を果たしました。

コンテンツ開発

ユニークベニュー

クルーズキッチン



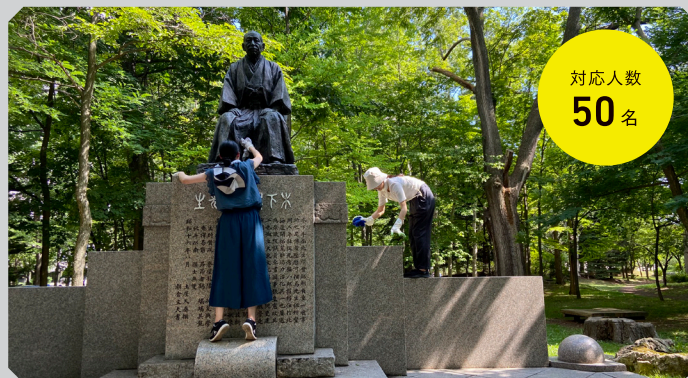
旅するキッチンバス「クルーズキッチン」は、既存の施設にとらわれずに、主催者のニーズにあわせた食事を提供できるのが大きな特徴。その強みを生かした新たな取り組みとして、札幌羊ヶ丘展望台で「絶景レストラン」の実証事業を行いました。地域ならではの極上経験ができる空間・場を創出でき、既存のプランにも取り込みやすいため、今後のグリーンシーズンの新コンテンツとして注目されています。

詳細

www.conventionsapporo.jp/uv_and_tb/jp/unique_venue/detail.asp?id=376

チームビルディング・CSRプログラム

彫刻みがき



国際文化都市、札幌には著名作家の野外彫刻が500点近く設置され、雨や雪に洗われながら美しい都市景観や自然の中で存在感を示し続けています。札幌の街を守る活動の一環として「札幌彫刻美術館友の会」とともに開発したチームビルディング・CSRプログラム「彫刻みがき」を行いました。この活動を通じて、身近にあるアートに気づき、触れることで彫刻の作者や材質、設置年や設置理由、制作工程など、作品の背景に理解を深める機会にもなりました。

詳細

www.conventionsapporo.jp/uv_and_tb/jp/team_building/detail.asp?id=394

広域連携

広域連携推進会議

in 小樽



札幌市では、小樽市および倶知安町・ニセコ町との間で「MICEにおける連携・協力についての覚書」を交換しています。これまで海外においてビジネスイベントを取り扱う旅行会社等の視察受入など、連携事業を展開。コンベンションビューローも、札幌のMICE推進機関として参画しています。毎年、MICE推進のための情報交換を行うほか、連携会議を実施。2023年度は小樽で開催され、小樽市が改築を進めている公会堂・能楽堂を視察。小樽の歴史、芸術文化の象徴でもある能楽堂で予定されているコンサートや日本舞踊の演舞プログラム、夏季限定のカフェやライトアップの企画について伺いました。今後は北海道唯一の能舞台を国外に向けても情報発信を行い、ユニークベニューとしての活用を進めていきたいと考えています。

詳細

www.otarushiminkaikan.jp/koukai/

Event

国際観光コンベンションフォーラム2024

in 札幌



全国の研究者、自治体、観光協会、コンベンションビューロー、観光コンベンション関連企業・施設等に呼びかけ、ビジネスイベント・集客交流産業のあり方・課題などを地域の立場から議論する場として、2006年から開催される国際観光コンベンションフォーラム。2月28日、29日に、5年ぶりに北海商科大学で開催された。1日目の午前は講演会、午後は若い世代に向けたビジネスイベント産業への関心、NewYorkTimesにも掲載されたジュエリーアリスの命名者による「人を引き付ける地域コンテンツ」、地域特性を活かしたまちづくりなどのテーマに沿って3つの分科会が行われた。2日目はアドベンチャートラベルについてのパネルディスカッション、芸森ワーサムでのチームビルディングなどを実施。全国から集まった約160名の業界関係者がそれぞれの地域が持つ課題等について熱い議論を交わしました。

イベント詳細

www.japan-convention.net/information/36.html

WHAT ELSE

新しいプロモーション動画が完成しました！

ビジネスイベント誘致に欠かせないプロモーション動画。札幌を代表する国際的にも競争力のある研究分野・フィールド、産業、設備等にフォーカスして制作しました。札幌へのビジネスイベント誘致・開催にぜひご活用ください。

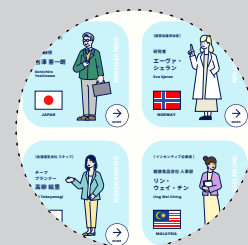


動画リンク

www.youtube.com/watch?v=ekdaAow6xmo

地域とビジネスイベントとの関わりを紹介するウェブサイト「MICE PEOPLE」を制作しました！

ビジネスイベントが地域の経済、社会、環境等にもたらすインパクトについて、分かりやすく紹介するウェブサイトを制作しました。ご覧になった方が自分ごととしてビジネスイベントを捉えられるよう、地域の人々や次世代を担う人々などの視点から、地域とビジネスイベントとの関わりを紹介しています。

MICEに関わる
NICEな人たちを紹介！

WEBサイト

www.conventionsapporo.jp/micepeople/
札幌コンベンションセンター
改修工事に伴う休館及び営業再開のお知らせ

2023年に20周年を迎えた札幌コンベンションセンター。2023年10月1日から2024年5月31日まで大規模改修工事に入っており、2024年6月より、設備がアップデートされ再開いたします。



WEBサイト

www.sora-scc.jp/

札幌中心部に外資系ホテルが続々

2024	1月	ホテル創成札幌Mギャラリー	118室
2024	4月	グランドメルキュール札幌大通公園	294室
2024	夏期	コートヤード・バイ・マリオット札幌	321室
2025	秋期	インターコンチネンタル札幌	149室
2026	夏期	ハイアットセントリック札幌	216室

